



## なまごみはなぜ肥料になるの<sup>ひりょう</sup>

### いろいろな栄養素をふくんだなまごみ<sup>えいようそ</sup>

台所から、毎日、多く出されるなまごみ。野菜くずやたまごのから、魚の骨など、いろいろなものがまじっています。

このなまごみを庭の土の中にうめたりして、肥料として役立てることがあります。もともと、人間にとっても栄養のある食物です。これが、どうやって肥料になるのでしょうか。

### 土の中には微生物がいっぱい<sup>つち なか びせいぶつ</sup>

たとえば、約1グラムの中に細菌類で1000万~1700万、放線菌が100万~140万、カビの仲間が20万前後もいるといわれています。

この土の中の微生物によって、なまごみにふくまれるタンパク質や、糖分などの有機物が分解され、くさります。そして、脂肪酸やアンモニアなどができます。

このアンモニアなどのちっそ化合物は、肥料として植物の根から吸収され、植物のからだをつくっていくのです。(監修 青木国夫)

